



教育センターだより

編集・発行
君津市教育センター

君津市久保2-13-1
TEL(56)1451
第186号

きみつ学び調べ活用研修の紹介

今年度、教育センターでは、「きみつ学び調べ」の活用研修を、各校で行っています。研修では、日々の授業改善に活かせるよう、以下の内容を実施しています。

1 「きみつ学び調べ」の問題を実際に解き、指導のポイントを探る

小学校では、「算数」の計算問題について、児童がどのような誤答をしてしまうかについて考えます。誤答の理由を分析することで、児童がどこの部分でつまづいているかを明らかにします。

そして、そのための対応策として、どのように指導をしていけばよいかについて指導法を考え、グループで話し合い、全体で共有をします。中学校では、国・数・社・理・英の問題について、普段の授業で、生徒が理解し的確に問題に解答できるようにするためにはどうしたらよいかを考え、話し合い、共有します。



2 ドリルパークを実際に操作・体験し、有効活用法を知る 「オーダーメイドな課題配信機能」

ドリルパークには、復習させたい範囲と取り組み時間を設定するだけで、子どもたちの習熟度に合わせて、一人ひとりに最適な課題を配信することができます。こちらの機能について、実際にiPadを使用しながら体験をしてもらい、明日からの授業で活用できるようにしています。



情報モラル教育～ネット社会を安全に歩いていくために～

GIGAスクール構想やSNS技術の高度化により、子どもたちを取り巻く環境は高度情報化社会へと大きく変革しました。このような社会で、ほとんどの子どもたちは、学校の1人1台端末以外に個人端末も所有し、生活の中でSNSの利用が習慣化されております。SNSの利用は円滑に情報を収集できる利点がある反面、トラブルが発生する可能性があるといった欠点もあります。SNSと上手に付き合いながら、ネット社会を歩いていく子どもたちには、リスクを未然に回避できる力の育成がより重要です。

「〇〇はダメ!」ではなく、ネット社会の落とし穴を教え考えさせる・・・

家庭におけるルールづくりでは、「〇〇を守る」や「〇〇はダメ」といった大人視点になりがちで、なぜそうなのか?といった考える場面が少ない傾向にあります。子どもたちがSNSと上手に付き合っていくためには、SNSにおけるリスク(落とし穴)を理解させ、回避策を考えさせることが重要です。今後の実践で参考となる資料(サイト)を紹介しますので、活用いただければ幸いです。

〈ネット社会の歩き方〉

〈LINEみらい財団〉

〈文部科学省「情報モラル教育ポータルサイト」〉



第15期君津市中学校合同生徒会全体協議会令和6年8月20日（火）開催！

第15期活動テーマ 「Shiny～共に輝く君津～」

第15期共通取組 「OMOIAI運動」 「SDGs活動」



<記念公演>

講師：NPO法人地球のステージ代表理事
桑山 紀彦

テーマ「ともに輝ける未来にしてい
ために、中学生にできること、幸福とは」
節目の年にふさわしい演奏と映像を交
えた素敵な公演でした。生徒達は食い入
るように公演を聴き、質問コーナーでは
どんどん質問があふれ出てきて、生徒達
にとって有意義な時間となりました。公
演を聴いて、「自分の生活に感謝したい」、
「人とのつながりを大切に、学校や君
津市全体をよりよくしたい」などの感想を持つことができました。



<意見交換会>

午後の意見交換会では、午前部の公演とつなげて「私たちが考える幸せとは」をテーマに意見交換を行いました。

～生徒の幸せについての考え～

- ・平和に暮らしていることが当たり前である幸せに感謝すべきだと感じた。
- ・学校に通えることや、自由に遊び勉強できる環境が幸せだと感じた。
- ・忙しさや困難さを感じることで自分が幸せで、他国の困難さと比較し自分の恵まれた環境に感謝すべきと感じた。
- ・幸せは安心できる環境から生まれると感じた。
- ・友人との楽しい時間や安心感が幸せにつながる。
- ・当たり前のことが当たり前でできることが幸せだと気付いた。部活動を通じて感じた喪失感からこの考えに至った。

～取り組んでいけそうなこと～

- ・幸せを感じるためには、学校内で互いに認め合い、安心できる環境を作ることが重要。
- ・環境を守るために、学校内で互いの個性を認め合い、思いやりや感謝の気持ちを表すことが大切。
- ・感謝される行動をすることで、双方が幸せになれる。
- ・募金活動を通じて、少しの行動が多くの人に幸せを与えることができる。
- ・身近な人に感謝を伝える場を作ること、良好な関係が築ける。
- ・悩んでいることを書き出すことで幸せにつながると思うので、目安箱を設置。
- ・「ありがとうの木」を作る取組：感謝の気持ちを伝えあうことで、みんなが幸せになれる。
- ・挨拶やボランティア活動を通じて、学校内外でのつながりを強めたい。

<実践報告・意見共有会>

各学校の「OMOIAI運動」、「SDGs活動」の取り組みについて報告があり、質問をしながら、各校の実践を自校にも取り入れて、君津市全体を盛り上げていこうという意欲を感じました。

生徒たちの素晴らしいアイデアや考えを聴くことができ、君津市の未来が楽しみになりました。

君津市教育センター夏季研修会

道徳研修会

7月30日(火)

昨年度に引き続き、南房総教育事務所 平野裕子指導主事を講師にお招きし、研修を行いました。

これまで実践してきた経験をもとに、参加者を生徒に見立て授業を紹介してくださいました。この場で、こういう発問をすると深く考えられたり、心を揺さぶられたりすることを体験することで、目標に迫る授業の組み立て方を理解することができました。また、心情円や意見共有サイトを活用して視覚的にみんなで共有、共感できる手立ても紹介してください、研修後の感想には早速実践してみたいという声が多く寄せられました。



和楽器指導者研修会

8月7日(水)

5年ぶりに開催された和楽器指導者研修会には、9名の先生方が参加されました。日頃、出前授業でご指導くださっている三幣先生、ボランティアでお手伝いをしてくださっている川名先生、渡邊先生に加え、石井大師範、広中先生、大野先生が丁寧に指導・支援してくれ、「さくらさくら」や「こきりこ」、「うさぎ」を合奏することができました。学校での授業を想定した、準備や片付けのアドバイスや、先生方の模範演奏を鑑賞する時間もあり、とても有意義な時間となりました。



特別支援教育研修会

8月6日(火)

昨年度に引き続き、南房総教育事務所 吉元やすよ指導主事をお招きし、研修を行いました。

今回の研修会では、学校生活の場面で困り感がある児童生徒に対し、具体的にどのような対応ができるのか、様々な事例を通して教えていただきました。

児童生徒が示す行動にはその子なりの理由があり、どのような気持ちでその行動をしているのか、どんな背景があるのかを想像することが大切です。そのうえで困り感に応じた対応の仕方や「伝え方のポイント」、リフレーミングの手法などを詳しく教えていただきました。

特別支援学級の担任だけでなく、通常学級の担任にも多く参加いただきました。参加された先生方からは、「事例にあげた話がとても具体的で、児童生徒を思い浮かべながらこんなふうに対応してあげたらいいのかなと考えることができた」「たくさんの指導のポイントを教えていただいたので、夏休み明けから実践していきたい」「まずは児童生徒の思いを受け止め、できていることを認める声かけをしていきたい」などの感想を多くいただきました。

きみっ子サポーター研修会

6月13日(木)

「支援を必要とする子どもへの理解と対応」
講師 千葉県総合教育センター特別支援教育部
南房総教育事務所 稲村 由則 研究指導主事
君津特別支援学校 秦野 真紀 指導主事
大坪 道代 教諭
君津市特別支援アドバイザー
小林 哲子
君津市スクールソーシャルワーカー
佐藤 光英

6名の講師をお招きし、職種別・中学校区別に分かれてグループ協議を行いました。日々児童生徒に対して感じている悩みを各グループで話し合いました。同じ職種での悩みや支援方法について活発な意見が交わされました。また、中学校区のため学校間での情報の共有もできました。講師の先生方からは普段の教育実践に役立つ視点や支援方法について丁寧に助言をいただきました。参加者からは、「アドバイスが明確でわかりやすかった」「早速活動に役立てたい」「実りのある研修だった」などの感想が多く寄せられました。

夏のつながる山・川・海研修会 8月5日(月)

海洋教育パイオニアスクールプログラム参加市内小中学校7校の教員を主な対象として、3人の講師を招いて実施しました。

1人目の講師、木更津金田の海苔漁師でノリネットクラブ代表の石川金衛さんからは、東京湾の海苔養殖の現状と環境の変化についてのお話を伺い、海苔の食べ比べや、アサリの味噌汁の試食をさせてもらいました。2人目の講師、日本製鉄(株)先端技術研究所の小杉知佳さんからは、君津の海に鉄鋼スラグで浅場が造成され、ワカメの森が広がっている水中動画を見て、ブルーカーボンについて学びました。最後の講師は、木工雑貨制作をしているZUKOUSHITU戸田肇さん。間伐材の有効活用についてのお話を伺い、実際に三舟山のマテバシイ間伐材のコースター作りを体験しました。

室内での研修の後、盤洲干潟に行き、カニなどの生き物観察とマテバシイの葉落とし体験をしました。葉を落としたマテバシイの枝はノリネットクラブの石川さんの協力、海苔ひびとして海苔養殖場に立てられ、1月の各校海苔すき体験でお披露目されます。



イングリッシュ・デイ・キャンプ10周年 ～きみリンピック2024～

イングリッシュ・デイ・キャンプスタートから10周年。オリンピック・パラリンピックイヤーと重なる今年は、「きみリンピック2024」のテーマのもと、小・中学生合同で開催され、中学生7名、小学5・6年生26名の計33名が参加しました。

異学年の小グループを作り、オリエンテーリング形式で15のアクティビティに挑戦しました。まずは、自分たちのグループフラッグを色塗りするところからスタートしました。そして、自分たちでどのアクティビティから体験するか、相談し、地図をたよりに子どもたちが主体的に行動しました。英語でポッチャやアーチェリーをしたり、ダンスを考えたり、宝探しや英語のクイズ等にも挑戦しました。1日英語だけで過ごしましたが、仲間同士で協力しながら、学び合っていました。

閉会セレモニーでは、グループ対抗でクイズに挑戦したり、創作したダンスを披露しながら、参加者たちがだんだんとつながり、大きな輪となり、1日一緒に過ごしたALTや仲間を讃え合い、幕を閉じました。

自然豊かな「おらがわ」で、開放的な気持ちで、生きた英語に触れる！本当に海外に旅行に来たような臨場感で、バスに乗って帰る時には、ALTとの別れを惜しむ参加者がたくさんいました。姿が見えなくなるまで、ずっとずっと手を振りながら、お別れをしました。



◎教育センター所員紹介◎

令和6年度の教育センター所員です。新たに3名の所員を迎え、18名の所員で君津市の児童生徒および先生方のために、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

役職	名前	役職	名前
所長	小嶋 裕一	副所長	吉野 貴行
主査	織本 幸子	主査	岡本 誠士
主査	根本 梨絵	主査	田仲 永和
主査	大森 理絵	主査	山口 基樹
主査	伊藤 良平	副主査	及川 佑一
副主査	森田 和也	主任主事	鎌田 康暉
主事	鈴木 智也	非常勤	佐々木啓輔
SSW	佐藤 光英	CALT	ケイト・エド・デス
特支AV	小林 哲子	ICT支援員	山下正二郎



SSW：スクール・ソーシャル・ワーカー CALT：コーディネーター-ALT
特支AV：特別支援アドバイザー